

PRAEVIDENTIA DAILY (3月23日)

昨日までの世界：FOMC 後のドル安が復活

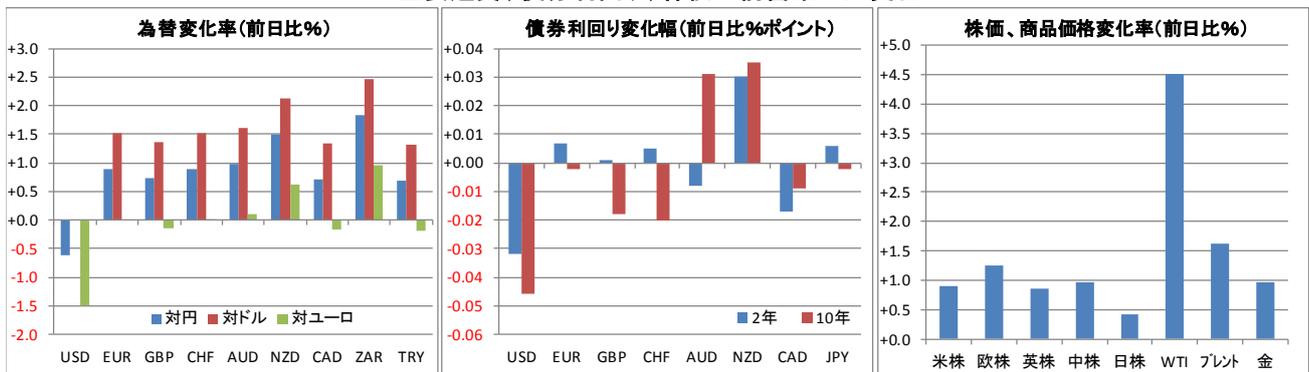
先週金曜は、特段の追加材料がない中で、米 FOMC 後のドル安からの反発が一服し、再び米中長期債利回りの低下と共にドルが反落し、米株価は反発、依然として今後の利上げ開始のタイミングやペースについて落ち着きどころを探る展開が続いている。

ドル/円相場は、18日のFOMC後に119.38円へ急落した後、翌日に121円台を回復、20日金曜には欧州時間にかけて121.20円へ続伸する局面が見られた。もっとも、FOMC前の水準は回復できず、結局再び120円丁度近辺へ反落した。

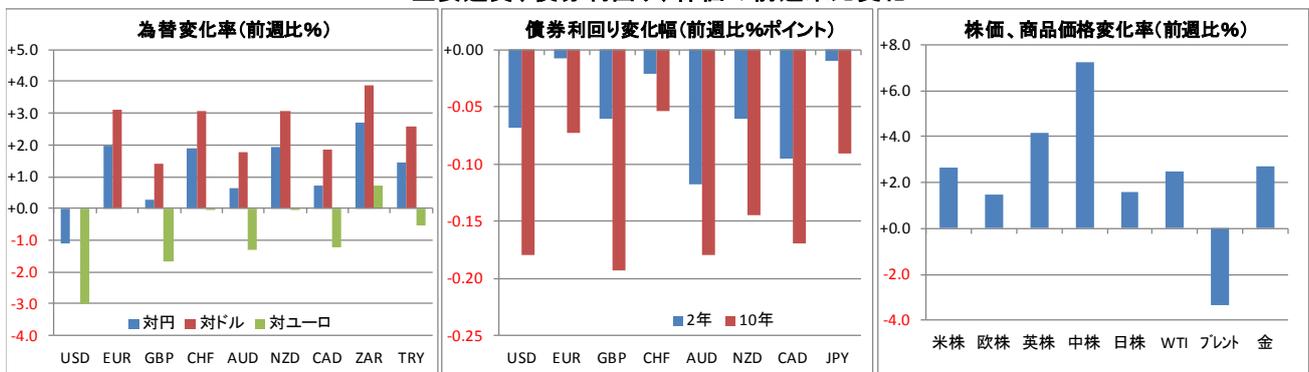
ユーロ/ドル相場もほぼ同様に、FOMCを受けて1.06ドル台半ばから一時1.1031ドルへ急伸した後（ドル安）、19日には1.06ドル丁度近辺へ反落したが、20日金曜には1.08ドル台乗せへ再び上昇している。ギリシャを巡っては、20日にかけてEU首脳会合が開催され、Tsipras ギリシャ首相が近日中に支援の前提となる財政改革の詳細案をEUに提出することで合意に至ったことが好感されギリシャ国債利回りが低下、一応ユーロ支援材料ではあるが、先週金曜の動きはユーロ高というよりドル安の力の方が強かったとみられる。

豪ドル、NZドル、南アランドなども同様の動きとなったが、中ではNZドル/米ドル相場の上昇が大きく、FOMC直後の0.7545ドルを上抜けし20日金曜には一時0.7591ドルへ上昇している。他方、カナダドルは、カナダ小売売上高（除く自動車）が前月比-1.8%と市場予想（-0.4%）を大きく下回ったことから対米ドルで下落する局面がみられたことから、引けにかけての最終的な米ドル対比での上昇は原油高にも拘らず比較的小幅に留まった。なお、カナダの2月CPIは総合が前年比+1.0%、コアが前年比+2.1%と市場予想通りだった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



主要通貨、債券利回り、株価の前週末比変化



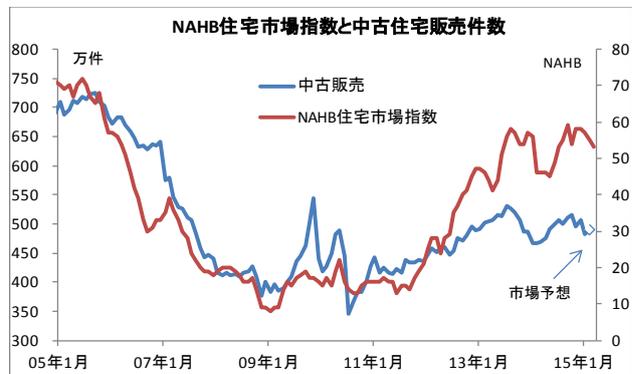
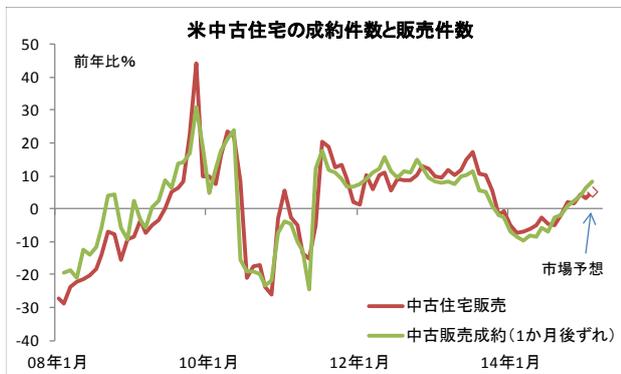
きょうの高慢な偏見：ドル下値模索

きょうの注目通貨：USD↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦政府月例経済報告				
Mester クリーブランド連銀総裁発言	17:40			ややタカ派、投票権なし
米2月中古住宅販売件数	23:00	482万件	490万件	
Fischer・FRB副議長発言	1:20			中立、常に投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は比較的材料が少なく、引き続きドルの落ち着きどころを探る展開となりそうだ。どちらかという、FOMCでの景気認識の下方修正の一因である天候要因の影響が出易い2月分が出尽くすまでは、どの程度悪影響が出たのかを見極めるため、ドルは上値の重い状況が続くそう。本日の材料の中では中古住宅販売があり、先行指標である中古住宅販売成約件数(前年比)との連動性を見る限りは、改善傾向が示される予想は妥当だ。もっとも、中古住宅販売と緩やかな連動性がみられるNAHB住宅市場指数は悪化が続いている。2月は住宅着工件数が急減したのが記憶に新しく、こちらも下振れリスクとなる。ドル/円はFOMC後の安値(119.38円)を意識した頭重い展開が続くそう。



今週の注目通貨：USD↓

今週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<24日>				
中国 3 月 HSBC 製造業 PMI 速報	10 : 45	50.1	50.5	
ユーロ圏 3 月 コンポジット PMI 速報	18 : 00	53.5	53.6	
英 2 月 総合 CPI 前年比	18 : 30	+0.3%	+0.1%	
米 2 月 総合 CPI 前年比	21 : 30	-0.1%	-0.1%	
同コア		+1.6%	+1.6%	
米 2 月 新築住宅販売件数	23 : 00	48 万件	47 万件	
<25日>				
NZ2 月 貿易収支・NZ ドル	6 : 45	+0.56 億	+3.5 億	
豪 RBA 金融安定報告発表	9 : 30			
ドイツ 3 月 Ifo 景況感指数	18 : 00	106.8	107.3	
米 2 月 耐久財受注・除く輸送・前月比	21 : 30	+0.3%	+0.3%	
同・非国防除く航空		+0.6%	+0.3%	
<26日>				
英 2 月 小売売上高・除く燃料・前月比	18 : 30	-0.7%	+0.4%	
南ア SARB 金融政策決定・レポ金利	21 : 00	5.75%		
<27日>				
本邦 2 月 全世帯家計調査・消費支出前年比	8 : 30	-5.1%	-3.2%	
本邦 2 月 全国コア CPI 前年比	8 : 30	+2.2%	+2.1%	消費増税分は 2%ポイント
ブラジル 4Q GDP・前年比	21 : 00	-0.2%	-0.7%	
米 4Q GDP 最終推計値・前期比年率	21 : 30	+5.0%	+2.4%	改定値は+2.2%
米 3 月 ミシガン大消費者信頼感・改定値	23 : 00	95.4	92.0	速報値は 91.2
Yellen・FRB 議長発言	4 : 45			

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

今週は FOMC の余韻もあり、米経済指標が最大の注目となりそうだ。原油安のインフレ下押し効果についてはようやく織り込まれてきた模様で、主要国のインフレ率は依然として非常に低い水準ではあるものの市場予想を下回らなくなってきた点、米国でも CPI が安定を示せばドル下支え要因となる。また米 4Q GDP 最終推計値も小幅上方修正の見込みとなっている。もっとも、十分に織り込まれたか分からないのは米国の冬場の悪天候の影響で、2 月分の経済指標がどの程度市場予想を下振れするのか、そして 3 月分でのどの程度反発を見せるのかが 4 月にかけての焦点となる。今週でいうと新築住宅販売や耐久財受注に悪天候の影響がどの程度出るのが注目され、下振れリスクを意識した展開となり易く、どちらかというリスクはドル安方向に偏っている。

ユーロ圏ではギリシャ問題がどちらかという重石となる一方、PMI や Ifo といった景況感指数は改善傾向の継続が示される見込みで下支え要因だ。もっとも、これらよりも、ユーロ/ドルでは上述のドルの動きの方が影響力が強くなりそうで、ドル安バイアスを受けたユーロの上昇圧力に対して、ECB の量的緩和がどの程度ユーロ圏国債利回りとユーロを押し下げられるのかが注目だ。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641